

唐津の民謡(1/2)

唐津には古くから伝承されてきた数多くの民謡がある。民謡はふるさとの歴史や風土に根ざし、人々の生活心情や生業等の姿を伝える大切な民俗文化財である。

民謡の種類は、1)「労作歌」 2)「祝い歌・祭り歌」 3)「踊り歌・舞踊」 4)「座興歌」5)「子守唄」 6)「わらべうた」等に分類される。

労作歌には、かつての捕鯨基地呼子を中心とした捕鯨に関するものとして小川島の「鯨骨切唄」、大漁を祝う唐房の「千越大漁祝唄」などが現在も歌われている。

ほかに、鯨口クロ巻唄、鯨大唄、櫓漕ぎ唄などがあったが、現在ほとんど歌われていない。また、浜玉町五反田付近は、昔から冬の農閑期を利用した和紙作りが盛んで、昭和中ごろまで続いていたが、冷たい水の中で紙をすく作業はつらく、それをまぎらわせるため唄った「唐津紙すき唄」がある。同じく浜玉町東山田の「がめつき唄」は大きな溜池七股堤の地固めをする作業で、この歌を歌いながら総勢5,60人が力を合わせたといわれている。

祝儀に関するものの代表は、「タンス長持ち唄」と「釜ぶたかぶせ」があり、共に嫁入りの際の歌で、かつて唐津地区でも歌われていたが、現在ほとんど歌われない。

玄海沿岸とその周辺部では、近年まで盆口説きが盛んに行われていた。櫓を組んで、その周囲に円陣を作り、歌に間の手を入れながら踊ったが、現在の盆踊りでは、口説きにつれて踊る形式はなくなった。浜玉町では、お通夜口説きが歌われている所もある。

～2/2へつづく～

分野 文化

地域 全域

◎地図・写真・統計資料など



島の小学生を中心に活動する「小川島鯨骨切り唄子供保存会」

(唐津もんだよりより)

◎引用・参考文献(出典)

- ◆『佐賀の民謡』福岡博著 昭和62年
- ◆『佐賀県の民謡』～佐賀県民謡緊急調査報告書～(佐賀県教育委員会) 昭和63年
- ◆『佐賀県の民謡』(財)日本民謡協会 佐賀県連合委員会 平成18年

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html

唐津の民謡(2/2)	分野	文化
	地域	全域
	◎地図・写真・統計資料など	
<p>～1/2からつづく～</p> <p>祭り歌として有名なものに唐津くんちを歌った「唐津エンヤ節」がある。座興唄としては、殿の浦の船宿と称される遊郭などで船出を待って歌われた「呼子ハイヤ節」や佐賀の代表作である「梅干し」が高島や神集島でも歌われている。</p> <p>古来から歌い継がれてきた民謡とは別に、「新民謡」が大正後期から昭和初期にかけて全国的に次々と創作された。「曳山囃子の唄」「呼子音頭」「相知音頭」等の他、北原白秋作詞の「唐津小唄」「松浦漣」などが知られており、これらは作詞家作曲家によって作られたものであるが、広くその地域の歌として親しまれることになった。</p> <p>唐津の民謡は、労作歌や祝儀歌などの多くが他の地域同様に伝承を危ぶまれているが、祝い歌や祭り歌、座興歌、新民謡などが、今後も伝承されていく可能性を持っているといえるだろう。</p>		
	◎引用・参考文献（出典）	
	<p>◆『佐賀の民謡』福岡博著 昭和62年</p> <p>◆『佐賀県の民謡』～佐賀県民謡緊急調査報告書～（佐賀県教育委員会）昭和63年</p> <p>◆『佐賀県の民謡』（財）日本民謡協会 佐賀県連合委員会 平成18年</p>	
◎エピソード・伝承・うんちく など	◎もっと詳しく知りたい方は	
<p>■佐賀県の民謡大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐賀の民謡まつり全国大会（佐賀市） ・佐賀タンス長持唄大会（多久市） ・岸川節全国大会（多久市） ・（財）日本民謡協会 民謡民部佐賀県連合大会（白石町） <p>■民謡の楽譜</p> <p>民謡は、人から人へ伝承されてきたもので、楽譜はなく、あるとしても尺八譜と三味線譜のみであった。『佐賀の民謡』の著者福岡博氏は、佐賀県内を30年間かけてカセットテープで収集し、当時の佐賀大学講師の筒石氏の協力で楽譜に収めることができた。</p>	<p>唐津市近代図書館へお問い合わせください。</p> <p>■電話：0955-72-3467</p> <p>■ホームページ： http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html</p>	